

P-143

当センターにおける全身麻酔下での治療内容の動向および医療連携に関する調査

田中 亜生¹⁾、平林 幹貴²⁾、田中 純子²⁾、
横田 英子³⁾、雨宮妃香莉²⁾、壹岐 千尋²⁾¹⁾東京歯科大学 歯学部 小児歯科学講座、²⁾東京都立心身障害者口腔保健センター、³⁾日本大学 歯学部 歯科麻酔学講座

【緒言】東京都立心身障害者口腔保健センター（以下：当センター）は地域歯科医療機関で対応困難な障害者・児において、通法下や鎮静下での歯科治療が困難である症例は、全身麻酔（以下、GA）下にて治療を行っている。当センターがGA下での治療を行っていることは地域歯科医療機関で周知されているものの、その治療内容まで把握されているかは不明であり、また、どの地域と密な医療連携を行えているかは明らかでない。そこで本研究は地域歯科医療機関との医療連携推進を目的とし、GA下での治療を行った患者の実態調査を行った。【対象および方法】調査対象は、2020年1月から2022年12月までの3年間に当センターでGAを行った患者284名（延べ454回）である。対象者がGAを受けた年月日、治療内容（治療歯数、診断名、処置名）、障害名および医療連携先について診療録をもとに集計を行った。なお、本研究は日本障害者歯科学会倫理審査委員会の承認を経て行った（承認番号23003）【結果および考察】GA下で治療を受けた患者の障害は自閉スペクトラム症が最も多かった。これはASD特有の感覚過敏があることで、他の疾患より歯科適応が悪く、GAの需要が高くなっている可能性が推察された。GA治療をうけた患者の当センター来院経緯は医療関係者の紹介が約3/4を占めていた。医療関係者には十分当センターについて周知されているようだが、多職種への広報に力を入れていくべきだと考えられた。齲蝕重症度が軽度な歯数は年々増加しており、齲蝕重症度が重度な歯数は2022年が最も少なかった。また歯周病が原因で抜歯を行った歯数は年々減少していた。早期にGA下治療を行える医療連携の体制が整っていると考えられる。しかし、1回のGAで処置終了する患者は年々減っており、5回以上のGAで治療を必要とする患者が年々増えていた。これらから齲蝕の重症度が二極化となっていることが分かった。患者の居住地において、障害者歯科センターがない地区よりも、ある地区の方が患者数が多い傾向にあった。これは障害者歯科センターが地域の障害者・児を口腔内管理しており、適宜当センターへ紹介していることが推察された。今後、重度な障害のある患者の口腔内が重症化する前に口腔内管理できるよう、医療連携を強化していく必要がある。